

令和元(平成31)年度 岩出小学校 学校評価シート

教育目標	人権尊重の精神を基盤に、知徳体の調和のとれた児童の育成を図る	学校名	岩出市立岩出小学校	校長名	原 寿宏
------	--------------------------------	-----	-----------	-----	------

目指す学校像	地域と共に歩む学校	目指す児童像	校訓「強く、正しく、むつまじく」を体現する児童	夢と希望をもち自ら進んで学習する子供、自分も友達も大切に思いやりのある子供、心身ともにたくましくねばり強く挑戦する子供
--------	-----------	--------	-------------------------	---

本年度の目標	1 知:「確かな学力」の定着・向上	達成度	A	十分達成した(90%以上)	学校評価の結果と改善策の公表方法 学校ホームページで公表 校報「絆(きずな)」で周知
	2 徳:「豊かな心」の育成 (自分も他の人も大切にすることを育てる)		B	概ね達成した(80%以上)	
	3 体:「健やかな体」の育成 (体力・運動能力の向上、運動習慣の定着)		C	あまり十分ではない(70%以上)	
	4 地域と共に歩む学校づくり (開かれた学校づくり/コミュニティ・スクールの推進)		D	不十分である(70%未満)	

自 己 評 価							学校関係者評価
重 点 目 標			年 度 評 価 (令和2年2月12日現在)				令和2年2月12日 実施
番号	現状と課題	評価項目	具体的な取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への改善とその方法
1	3年間にわたり、「調べ学習」を軸に「思考力」を高めるための授業改善に取り組んできた。その結果、図書資料の中から、自分に必要な情報を探したりすることには慣れ親しみ、そうした学習スタイルも定着したが、語彙が少なく、探した情報を精査・解釈し、自分の考えとしてまとめ表現するという点には、課題が残っている。 なお、取組の成果として、各種学力調査の正答率が全国平均や県平均を上回る教科・項目が増え、活用問題などについても向上が見られるようになってきた。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート	①基礎基本の定着(朝学、補充学習、家庭学習等での復習の徹底) ②弱点の分析・指導方法の工夫改善 ③子供の理解に即した学習指導	①自主勉強がんばり賞(A)。(年間600人以上)、「たくさん読んだで賞(B)」。(年間100人以上) ② 左記調査(保護者)「学校は基礎学力向上に取り組んでいる(A)」の4及び3評価合計が85%以上、「子供は、授業が楽しく分りやすい」と言っている(B)」の4及び3評価合計が90%以上。 ③ 左記児童アンケートで、「学習」に該当する全項目(1~8)(A)の4及び3評価合計の平均が85%以上、「国語(B)・算数(C)・理科(D)の授業がよく分かる」の割合が90%以上 ◆左記調査(教員)の「1」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	①A:458人 B:73人(共に2学期末) ② A: 94% B:88% ③ A: 1学期79.6%・2学期77.3% B: 1学期90.3%・2学期86.6% C: 1学期90.6%・2学期84.6% D: 1学期86.8%・2学期86.1% ◆「1 確かな学力の定着・向上」:77% (ICT環境が高学年にしか整備されておらず、そのため活用率が低く、結果として同項目の評価が下がり、全体としての評価も低下した。)	A	全国学テで、国語科は、昨年度初めて全国平均を上回り、今年度も1.9ポイント上回った。また、算数科も、昨年度に引き続き2年連続で上回っている。県到達度調査でも、国・算ともに概ね県平均を上回る結果となっており、これまでの取組が結果となって現れてきている。しかし、まだまだ全体的な底上げは必要であり、引き続き、国語科を中心に、「読解力」と「語彙力」の向上をテーマに授業改善に取り組んでいく。
2	各学年・学級で、自分の気持ちを相手に伝えることのできる環境づくり(間違っても許し合える人間関係づくり)に取り組んでいる。しかし、日々、些細なトラブルや、自己肯定感や自己有用感の低さ故の問題行動、学校の決まり・交通ルールなどが守れていない等の状況がある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者) ◆児童いじめアンケート	①一人一人の気持ちに寄り添い、子供たちが仲間を大切にする学級経営に取り組む。また、日々のトラブルに対しては、双方の言い分を丁寧に聴き、互いに納得のいく指導を行う。 ②いじめアンケートを実施する。(年3回/学期に1回) ③毎月の欠席状況を把握し、SSWなどとも連携し、定期的にケース会議を開催するなどし、気になる児童への関わり方について話し合う。	①② 左記児童アンケート「学校が楽しいと感じる(A)」の割合が95%以上、左記調査(保護者)「子供は学校に行のを楽しみにしている(B)」の割合が90%以上、アンケート実施後のいじめ解消率100% ③ 不登校を0に近づける、不登校気味児童の欠席日数を減少させる ◆左記調査(教員)の「2」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	①② A: 1学期95.3%・2学期93.8% B: 97% 解消率:100%達成 ③ スクールカウンセラーや不登校支援員等と連携を密に、定期的に家庭訪問等も継続実施しているが、長期傾向のある児童に対しては引き続き丁寧に対応していく必要がある。 ◆「2 豊かな心の育成」:80%	B	日々、些細なトラブルや喧嘩はあるが、各学年・学級で、自分の気持ちを伝えることのできる環境づくり、人間関係づくりに取り組んでいる。しかし、総体的に自己肯定感や自己有用感の低さ故の問題行動なども見受けられるため、家庭や地域の協力を得ながら高めていく必要がある。また、学校の決まりや交通ルールを守れていない児童が多く、生活指導部を中心に具体的な取組を検討し、全教職員共通理解の目指す指導を徹底していく。
3	子供たちは概ね規則正しい生活が送れているが、学年を問わず遅刻が多く、また、高学年になるほど夜遅くまで起きていて、運動能力に関しては、全国スポーツテストで平成26年度のAB層合計49.7%をピークに、その後、35%前後で推移し、やや低止まり傾向にある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート	①「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨する。(家庭と連携して基本的な生活習慣の定着を図る。) ②「学習と生活に関するアンケート」を実施する。(年3回/学期に1回) ③「朝トレ」や「はつらつタイム」をはじめ、季節に即した取組(長距離走など)を計画的に実施するとともに、運動場での外遊びを推奨する。 ④全国スポーツテストを徹底実施する。	①② 左記児童アンケート、「毎朝、7時までに起きていた(A)」の割合90%以上、「毎日、朝ご飯を食べた(B)」の割合が90%以上、「毎日、決められた時刻までに就寝した(C)」の割合が70%以上 ③ 「朝トレ」が「A」獲得児童数のべ150人以上 左記調査(保護者)「学校は運動習慣の定着、体力向上に取り組んでいる(B)」の4及び3評価合計が90%以上 ④ 全国スポーツテストで、A層の割合が10%以上、AB層の合計割合が35%以上 ◆左記調査(教員)の「3」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	①② A: 1学期91.1%・2学期84.6% B: 1学期91.1%・2学期91.7% C: 1学期67.1%・2学期66.1% ④ A層:12% AB層合計:38.8% ◆「3 健やかな体の育成」:92%	A	子供たちは概ね規則正しい生活が送れているが、高学年になるにつれ就寝時刻が遅くなってきている。また、毎日一定数の遅刻者があるため、児童会や委員会活動とも絡めて啓発していく。運動能力に関しては、全国スポーツテストの結果は多少改善できており、引き続き、「朝トレ」への参加促進、計画的な「はつらつタイム」の実施に努める。
4	今年度からコミュニティ・スクールの導入し、「みんなであつてみんなの岩小」を合い言葉に、保護者・地域に趣旨を説明し、理解を得るため、学校の取組や児童の様子を広く周知するとともに、「若小応援団」の積極的な活用や意見交流の場(共育座談会)の充実にも努めている。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者)	①校長が毎月「校報・絆」を発行する。また、各学年ごとに毎月通信を発行する。 ②取組をマスコミを通じて広報(情報発信)する。 ③学校支援ボランティア等外部人材を活用した取組を推進する。	① 左記調査(教員)「保護者や地域への情報発信は十分できている(子供の様子を積極的に伝えた)」(A)の4及び3評価合計が90%以上 左記調査(保護者)「学校の取組や子供の様子がよく分かった(B)」の4及び3評価合計が90%以上 ② 地方紙等で取組が紹介される回数(年間6回以上) ③ 学校支援ボランティア活用件数(年間12件以上) ◆左記調査(教員)の「4」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	① A:100% B:97% ② 新聞10回 ③ 年間14件(のべ29校時195人) 【2月末現在】 ◆「4 コミュニティ・スクールの推進」:95%	A	家庭科での学習支援や児童の校外引率など、「若小応援団」を機能させ、教育活動の充実にも努めた。また、学校・家庭・地域の熟議の場として「共育座談会」を開催、「絆コンサート」を公開し、保護者・地域の方140名が来場、感動を分かち合った。また、校報を見守り隊の方々にも地道に配布した。結果、地域の方々から児童や学校に対する気遣いの言葉をいただくようになってきた。今後も地域資源を生かした教育活動を推進する。

様々なアンケートを実施し、その結果を改善に生かそうとしているが、例えば「学校が楽しくない」と感じている児童が一人でもいたとしたら、その児童へのフォローをしっかりと行うなど、マイナス面の結果にこそ真摯に向き合い改善していくことが重要である。

「自己肯定感」や「自己有用感」が低いという現状に対しては、常に児童一人一人の良いところを見つけ、褒めたり、前向きな言葉がけを行うなどが重要である。スクールカウンセラーなどの協力のもと、校内研修等でそのスキルなどを学ぶ機会を設けるべきである。

コミュニティ・スクールの導入したことを受け、学校行事を広く保護者をはじめ地域にも開放するなどの姿勢については評価する。特に、神奈川フィルハーモニー管弦楽団による「絆コンサート」では、保護者に加えて、多くの地域住民が視聴し、子供たちの頑張る姿を直接観ることができ、大変良い機会であった。また、準備に運営協議会としても協力できたのが良かった。地域の方々の学校に対する心理的垣根が低くなってきている。今後に期待する。

教員の多忙化が指摘される中、子供と向き合う時間を確保していく上で、日々の業務の仕分けを行い、家庭や地域が担うべき部分はしっかりと家庭や地域が担えるように、協議会としても考えていかなければならない。今後、協議会の中で具体的な事項について話し合っていければと考える。